

建学の精神		豊かな特性と広く深い学識を持ち、世界的視野に立つ心身ともに明るく健康的な紳士・淑女を養成する。					総合評価
教育理念		建学の精神に基づき、時代の要請に対応し、現代社会に貢献できる人間育成に努める。学を修め、礼節を重んじる心豊かな品位のある生徒の育成に努める。					
めざす子ども像		目標を高く掲げ、自ら考えて積極的に行動できる子ども。自他の生き方を尊重し、互いを理解し合おうとする子ども。					
学校教育目標		基礎的な知識・技能を身に付け、自ら考えて体験をしたり、表現したりする活動を通して、知識・技能を確実にしながら、主体的に学ぶ態度を身に付けさせていく。また、礼節を重んじ、自らの品性を磨くとともに、他者の生き方・考え方を理解し、互いにより良い社会の構成員として成長しようとする意欲をもたせる。					
昨年度の成果と課題		本年度の教育目標			具体的目標		B
<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> キャリア教育の充実と校内ICT化の推進 進路における国立現役合格率約35% <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> 前期課程から後期課程への充実した接続 		<p>(1) 学業に専念する姿勢を育て、豊かな知性と教養を身に付けさせる。</p> <p>(2) 高い目標をめざし、自ら考えて何ごとにも挑戦しようとする心を育てる。</p> <p>(3) 自他を敬愛し、自ら進んで社会に貢献しようとする意欲を育てる。</p> <p>(4) 礼節を重んじ、品性を養い、誠実で寛容な態度を育てる。</p> <p>(5) 生命を尊び、自然を愛し、崇高なものに感動する心を育てる。</p>			<p>(1) 初心を忘れず、全力を尽くして学び続けようとする姿勢を機会あるごとに意識させる。</p> <p>(2) 自ら考えて行動しようとする主体的活動の機会を確保する。</p> <p>(3) 感謝の気持ちを忘れず、より良い社会を創ろうとする意欲を高めることを促す。</p> <p>(4) 他者を尊重し自己肯定感を高め、相互理解を進める機会を確保する。</p> <p>(5) 感動する心を大切に、豊かな感受性と自己表現の能力を高める機会を確保する。</p>		
分掌・学年	評価項目	具体的方策	評価指標	自己評価	成果と課題(評価結果の分析)	課題の改善方策等	学校関係者評価
教務部	年間教育・行事計画の立案 教育計画の円滑な推進	学習効果の上がる年間教育計画及び月間教育計画の企画・立案・調整	教務部会・教科会議・主任会議・企画会議・職員会議・教育課程検討委員会それぞれでの検討結果を各計画に反映できたか。	A	各分掌や各学年と調整を行い、おおむね実施できた。更に綿密な調整を図り、より効果的な教育計画の作成に向けての検討を重ねる。	年間教育計画作成時に各分掌と更に綿密な連携を行う。また、大学入試改革・新カリキュラムに向けて、探究学習の充実を図る。	A
	学習計画の円滑な推進とその目標の達成	弱点克服重点学習期間の講座の充実 シラバスの作成	教務部会・学年会議・教科会議・主任会議・企画会議・職員会議それぞれでの検討を年間5回以上実施できたか。また、各教科でシラバスを作成できたか。	B C	各分掌や各学年と調整を行い、おおむね実施できた。更に綿密な調整を図り、検討を重ねる。教員の多忙さへの配慮もあり、シラバスを作成できなかった教科が多くあった。	弱点克服重点学習期間での探究学習や補充学習のあり方について検討する。また、各教科主任にシラバスの作成を強く依頼する。	
進路部	目まぐるしく変わる入試環境に関して情報を収集し提供	収集した情報を整理して、生徒対象進路説明会や保護者対象進路説明会において情報を提供していく。	進路部として行ったそれぞれの説明会での情報が適切にホームルームや面談で活用されているかどうか。	B	進路部として情報収集する場が多くあり、職員会議などでその情報を共有することができていた。しかし、その後の各学年のフィードバックが取れていなかった。	保護者・生徒アンケートを実施し、現状を客観的に把握していく。	A
	校内外における生徒の諸活動の蓄積と振り返り	ICT教材であるClassiを用いて、生徒だけでなく教員も促し蓄積していく。	全学年の使用率が一定以上かどうか。	C	各学年でバラつきがあった。教員側も使用率が低かった。	Classiの有用性を訴え、教員・生徒ともに使用率を高める。	
	キャリア教育を通して、勤労観や職業観を育成するとともに多面的総合的評価に関わる内容との連携を進めていく。	キャリア教育を実施する時間を設定し、各ホームルームで展開する。	校内外の発表やレポートの内容でその成果が見られたかどうか。	A	校内での評価はもちろんのこと校外からの評価も十分得られている。内容の振り返りがありまじっていない。	年間計画に基づいて進められるよう計画を立て直す。	
生徒部	生活習慣の確立と規範意識の向上	自発的な挨拶や校門一礼等の基本的な生活習慣の徹底を図るため、毎朝の登校指導と中等4年生による週番活動を実施する。毎月、服装・頭髪・衛生チェックを行い違反生徒は速やかに改善させる。	遅刻者の数が増えていないか。 身だしなみチェックでの違反者が増えていないか。 校則違反をした生徒がいないか。	B	挨拶は自発的にできているが、全体的に元気がない。校門での一礼は、やっつけ気味で立ち止まってきている者が少ない。身だしなみについては、前もってアナウンスをしているにもかかわらず、チェックで注意を受けてから改善する者が多数いる。	朝のショートホームルーム・全校集会・特別活動等をととして、本校生としての自覚、ルールを守るなどの大切さを指導する。	B
	文化図書部	学校図書室の充実	・生徒が読みたくなる本を新規に購入し、図書室の活性化を図る。 ・蔵書の点検と損傷図書の修繕・保守を行う。 ・分類表示の改善を行う。	・購入希望図書を調査し、生徒のニーズに合う図書を新規に購入できたか。 ・蔵書点検を行い、貸出状況や図書の紛失状況を確認できたか。	B	・新規に240冊の購入ができた。 ・点検や修繕・確認作業が計画通りに進まなかった。	長期的な計画のもと、作業方法や手順の明示と伝達を徹底し効率化を図る。
保体美化部	自らの健康を管理	予防接種の推進 手洗い・うがいの徹底(除菌剤を各階に配置) 掲示物での注意喚起	自ら健康実態を把握させ、治癒を促して100%受診をめざし、適切な保健指導を行う。	B	尿検査・心電図の治癒率100%。そのほかの治癒率は、視力 59.3%・歯科 30.7%となった。歯科に関しては1~4年生は、約50%となっているが5・6年生が30%満たなかった。	歯科に関しては、前期課程から、早期治療の保健指導を行う必要がある。	B C
	熱中症対策を徹底	熱中症の時期を見越し、早い時期での全校集会で生徒に講話をし、注意を徹底する。その日の天気予報で熱中症の危険が予想される際には、職朝で全教員の共通理解を図り、各クラスで生徒に注意喚起をする。	自ら感染症や熱中症に対して予防ができるように適切な注意喚起を行う。	A	熱中症・インフルエンザ時期前から、各クラスに対するポスター掲示・保健だよりにより注意喚起を行った。熱中症対策として、教師と部活動への熱中症マニュアルの配布を行った。熱中症による病院搬送はなし。感染症対策では、各クラスへ消毒液の配布及び出席停止期間の周知徹底を図ったので、り患者は16%未満となった。	インフルエンザの感染に関しては、流行前の前の予防教育が大切であり、大きな効果を発するとされる。流行前に感染予防の徹底を図ること。	
	(美化部門)清掃活動の充実	(1)清掃活動の意味を考えさせるホームルームの実施 (2)各清掃場所における清掃手順の作成 (3)安全点検実施の際の工夫	(1)左の方策が実施されたかどうか。	C	(1)教職員間で清掃活動についての意見の交換をする場を持つことができず、清掃についての多様な考え方を取りまとめることができなかった。 (2)分掌長に意見を聞いたり、問題を把握する機会が持たず、分掌における役割分担がうまく機能しなかった。 (3)いずれの取組も実施されていない。	生徒自らが積極的に清掃活動に取り組むよう、建学の精神を踏まえて清掃活動を見直す。	
入試広報室	入学者数の確保	・早めの準備、点検で滞りなく入試広報行事を運営する。 ・塾回りを徹底し、各広報行事をアピールする。	・各広報行事前年度比30パーセント以上の増加 ・入学者数60名以上	C	・塾訪問の時期や方法が従来どおりであり、塾の状況に応じた対応をすべきであった。 ・魅力ある広報行事の展開と勧誘方法の工夫が課題である。	個別塾・個人塾訪問の徹底。 駅ごとに所在する塾をこまめにに回る	C
人権教育委員会	「性の多様性」について理解を深める。	・LGBTに係る人権教育講演会や映画観賞会の実施 ・LGBTに係る図書や資料の充実	人権教育講演会や映画観賞会の感想文の内容で、LGBTへの理解が以前より深まったという生徒の割合が90%を超える。	A	・「性の多様性」について、身体的な性別と心の性別があるということ、人により性的指向が違っていくことについて理解が深まったが、実際にLGBTである人と直接関わったことがないことへの不安があるという意見が少なくない。 ・当事者の置かれている状況は、まだまだ社会に正しく理解されず、広く認知されているとは言えない状況であるので、引き続き理解を促し続ける必要がある。	社会的にはLGBTという言葉だけが先行し、当事者の置かれている状況が正しく理解されず、広く認知されているとは言えないので、学校における取組では今後も一層生徒の理解が深まるよう継続していきたい。	A
渉外委員会	第1回・第2回の各保護者会の出席率	・文書の配布などにより、事前に参加を呼びかける。 ・第2回は、保護者の関心が高い携帯電話・スマートフォンの取扱いについて、NTTドコモより講師を招き、「ケータイ・スマホ安全教室」を行う。	・第1回・第2回の各保護者会とも出席率50%を上回る。	C	・第1回の出席率は約54%。教育方針の説明等への保護者の関心の高さにより一定の出席者数があったと考えられる。 ・第2回の出席率は約28%と昨年度とほぼ同率。講演会の後に実施された授業参観は出席率が約40%であったので、日程には大きな問題ではなかったと考える。内容については、現時点では保護者のニーズを捉えてマホデビューの低年齢化などにより、保護者の関心は携帯・スマホの取扱いよりさらに深いところにあるので、保護者のニーズに応えられなかったのが一因ではないかと考えている。	・この3年間の第2回保護者会出席率は20%台に低迷している。中学1年生から高校3年生までの保護者に統一のテーマで講演会等を設定することは大変難しい。また、前・後期別で実施する日程等のゆとりもない。したがって、現時点では保護者のニーズを捉えて講演会等の内容をより広く検討し、早く具体的に保護者に周知して出席の呼びかけを行うことで出席率の上昇を図りたい。併せて第2回保護者会の実施時期や実施の必要性についても検討したい。	C
1年	生徒自身が時間や教材の管理をする習慣を身に付け、自己の目標に向けて、積極的に学習に取り組み、学力向上を図る。	学年全体で指定の手帳を活用して、提出物や課題の提出期限厳守を徹底する。また手帳に生徒自身の日々の振り返りを記入し、担任が定期的に確認することで生徒の様子を把握し、その状況を学年全体で共有する。	課題など提出物期限を守る生徒の割合を100%とする。	B	学年団や教科担当者で手帳の活用を共有したことから、約90%以上の生徒が期限内に提出できている。	手帳活用による日程管理と学力向上の関係をその後も調査・分析を行い、学年全体での基礎学力の定着と上位層の学力の引き上げを図る。	B